

東桜コンピテンシー2019「②想像力」について

②「想像力」

自分の考えや行いがどのような結果をもたらすかを検討しようとする意思を持ち、望ましい結果を得るためのプロセスを想像する力。

「想像力」という言葉は、さまざまな内容を含んでいます。

たとえば、日ごろ、皆さんが人と接するときには、相手はいまどのような気分であるかを考えているのだろうと想像力を働かせるはずですが。

また、新しいものを創り上げるとき、つまり、「創造」するときには、未知の何かを「想像」しながら考えているはずですが。

いずれの「想像力」も、私たちが生活していく際、あるいは自分の夢や目標を達成しようとする際に大切になってくることですが、ここでは、「ビジョン」を達成するためのプロセスを思い描く力として「想像力」を考えてみたいと思います。

「自分の考えや行いがどのような結果をもたらすかを検討しようとする意思を持ち、望ましい結果を得るためのプロセスを想像する力。」

赤ちゃんから大人になっていく過程では、さまざまな成長がありますが、「見通しが立てられるようになる」ということも一つの成長でしょう。

たとえば、赤ちゃんには、目の前の物をなんでもかんでも口の中に入れようとする時期があります。当然、口に入れていい物と悪い物の区別がつかないからですが、皆さんなら、これを口の中に入れたらどうなるか、見通しを立てることができるでしょう。たとえば、キラキラ光った銀色のボールをなんの不安も感じずに食べようとする人はいないのではないのでしょうか。

そこで、大切なことは、初めて口にするものでも、なんとなく「こんな味がするのではないかな？」とか「こんな食感ではないかな？」、そもそも「これは食べられるのかな？」と想像できるようになるということです。その想像が正しいかどうかは、食生活の中で培われた経験がものを言うわけですが、私たちは経験からその物の味や食感を自然に学習しています。

これが、もし、「自分のビジョンを達成するためのプロセスを想像してみよう」と言われたら、そう簡単ではありません。それは、なぜでしょうか？ そう。人生は何度も経験するわけにはいかないからですね。

それでは、自分が望むような人生、望むような社会を思い描く力を身に付けるためには、何が必要でしょうか。

おそらくいろいろな方法があるでしょう。極端なことを言えば、日々生活しているすべての経験がその糧になるはずですが。

その中でもわかりやすいところでは、たとえば「読書」があります。さまざまな人

の人生を疑似体験することが可能ですし、いろいろな世界のことについて、書籍を通じて知見を得たり、想像したりすることが可能になります。

また、さまざまな経験をされている方の話を聴くという方法もあるでしょう。直接聴く場合やメディアを通じて聴く場合が考えられます。

思い描くプロセスが、短期的な目標、たとえば、「次の大会でいい成績を収めよう」というような目標を達成するためのものであれば、いま自分がすべきことを判断することは比較的容易です。しかし、5年後、10年後の自分の理想の姿を実現するために、いま何をすべきか、ということはそんなに簡単に結論が出せるものではありません。

皆さんが思い描いた「ビジョン」が、より人類のために貢献できるものであればあるほど、その難易度は高く、そして、実現するためのプロセスが難しいものになるだろうと思います。だからこそ、自分の高い志や夢、目標を叶えるため、そして、自分が思い描いた望ましい姿にできるだけ到達するために、そのプロセスを大事にしてほしいと思います。

米大リーグの大谷翔平選手は、高校時代に詳細な人生設計図を作ったそうです。それは、野球人生の歩みだけではなく、結婚、家庭生活、引退後までも書き込まれたものだったとか。大リーグで活躍する夢を実現できたのも、指針となる具体的なスケジュールがあったからかもしれません。

いま自分が取り組んでいることは、自分の5年後、10年後に繋がっているのだということを想像することは大切なことです。人は、振り返った時に気づくことが多くあります。「あの時こうしておけばよかった」という思いをできるだけしないためにも、想像力を働かせて自分のビジョンを叶えてほしいと願います。

令和元年（2019年）12月